

## 地球温暖化とノーベル賞について

ノーベル賞の発表が始まり、5日には日本出身でアメリカ国籍の真鍋淑郎（まなべしゅくろう）さんが、物理学賞を受賞しました。1947年に湯川秀樹さんが日本人として初めてノーベル賞を受賞したのも、物理学賞でした。真鍋さんは日本で大学を終えられた後、アメリカの研究機関で研究を続けてきました。かつてはこのような研究者の方々を「頭脳流出」と言ったことがあります。研究には国際性も大切な要素だと思います。

真鍋さんの主な研究成果は、大気と海洋を結合した物質の循環モデルを提唱し、二酸化炭素の増加が気候に与える影響を世界に先駆けて明らかにし、地球温暖化研究の基礎をつくったことと報道されています（NHKのHPより）。

地球温暖化の基本的な構図は、化石燃料の使用により発生した二酸化炭素などの温室効果ガスによって、地球表面からの赤外線による熱放射が抑制されて温暖化するというものです。このことで、北極や南極の氷が解けて海水面が上昇して国土が水没する危険にさらされる国がでたり、自然災害の激甚化などにもつながっているとされています。現在は地球温暖化対策の国際的な会議であるCOP「国連気候変動枠組み条約締結国会議」が、1995年以降継続的に開催されていて、近々第26回の会議（COP26）が、イギリスのグラスゴーで開催される予定です。

また、地球温暖化をめぐるのは、この他にIPCC（気候変動に関する政府間パネル）という組織があり、世界各国からの研究成果を定期的に集約して発表する場があります。

最近、「脱炭素」とか「カーボンニュートラル」などの言葉を聞くことが多くなりました。カーボンニュートラルとは、二酸化炭素など温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることで、環境省によれば2050年にカーボンニュートラルをめざすとされています。このことから、再生可能エネルギー（太陽光、風力、地熱、バイオマスなど）の普及や、自動車など化石燃料を動力とするものを電気や水素を動力源にするものに変えていくことなどが進められています。また、身近なところでは、レジ袋の有料化や植林の推進などもそれにつながる動きです。

さて、みなさんはノーベル賞についてはどのくらい知っていますか？スウェーデン人のアルフレッド・ノーベルが爆薬（ダイナマイト）の開発で得た私財を管理する財団が、科学の発展に寄与した人材に贈るものですね。物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、平和賞、経済学賞があります。ダイナマイトの開発者のお金で、平和に貢献した人に賞が贈られるというのもすごいですね。これまで、日本人及び日本出身の人が27人受賞しました。真鍋さんが28人目です。この人たち以外にも毎年候補に名前の挙がる人が何人もいますから、これからも日本人の受賞は続くのではないのでしょうか。

最後におまけの話になりますが、ノーベルが生まれたスウェーデンとはどんな国なのでしょう。北ヨーロッパの国で、税金が高いけれど福祉も充実した国。人口は1000万人ほどで、首都はストックホルム、王制の国です。ではこの国の企業についてはどうでしょう。家具のIKEA、自動車のVOLVO、携帯電話のエリクソン（エリクソンとお隣の国フィンランドのNOKIAは、携帯電話事業で世界的な企業です）などがあります。キルナやエリバレといった鉄鉱石の産地があり、実は鉱工業の盛んな国でもあるのです。